

|  |  |                    |
|--|--|--------------------|
| 平成 23 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書   |  | 提出日 2012 年 6 月 5 日 |
| 氏名： 函司 令子  | 実施国： フィリピン                                 | 協力活動・調査研究          |
| 活動名称   | マニラ首都圏貧困地域における保健ボランティアの活動に影響を及ぼす要因に関する調査研究 |                    |
| 実施期間   | 2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日             |                    |
| (1) 活動内容   |  |                    |
| <p>本調査研究活動は、フィリピン共和国マニラ首都圏貧困地域の保健ボランティアの活動に影響を及ぼす要因を明らかにし、開発途上国における保健ボランティア活用のための基礎情報を提供することを目的として実施された。調査対象地であるマニラ市トンド地区、ケソン市パヤタス地区で結核対策活動を行う 29 施設（保健所、NGO）をフィリピン人データ収集員 5 名と共に訪問し、結核対策活動に従事するフィリピン人ボランティア 179 名に対して質問紙を用いたインタビューを行った。主な質問項目は、保健ボランティアの基本属性・社会経済的特性、地域保健活動に対するモチベーションと満足度、結核対策活動の知識と態度であった。収集したデータは二変量解析により分析を行った。結果は論文としてまとめ、研究協力機関への報告ならびに第 30 回日本国際保健医療学会西日本地方会での口頭発表を通して共有した。</p>  |  |                    |
| (2) 活動を振り返ってうまくいった点、反省点  |  |                    |
| <p>本調査研究活動は、研究協力機関や調査対象地に居住するフィリピン人の協力によって実施された。活動初期の段階から研究協力者たちと密にコミュニケーションを取り、常に行動を共にするようにしたことで活動チームとしての一体感が形成され、現地活動を円滑に進めることができた。また、地域住民をデータ収集員として雇用し、自ら育成したことにより、限られた予算の中で効率的な活動ができたといえる。</p> <p>反省点としては、現地に入ってから時間的な制約があり、質問紙の検討を十分に行えなかったことが解析の段階にまで影響を及ぼしたことが挙げられる。現地の人々から話を聞き出して検証するには質問紙調査だけでは情報が限られるため、インデプスインタビューなど様々な方法を組み合わせて検証することの必要性を感じた。開発途上国においてプロジェクトを実施するには地域住民の現状やニーズを把握する必要があるため、今回の調査研究のようにデータ収集を行うことが多い。今後そのような業務を担当することになった際には、今回の反省点を活かして多角的な手法で調査を実施したい。</p> |  |                    |
| (3) 活動を通じて、国際貢献、国際交流ができたと思う点   |  |                    |
| <p>本調査研究により、開発途上国における保健人材の活用に関して基礎情報を提供することができたといえる。保健ボランティアは地域保健サービス提供の前線に立つ人材として注目を集めているが、保健ボランティアを対象とした調査研究は限られており、活動の動機付けという新たな課題についても議論が続いている。本調査研究ではこれまで十分には行われていない量的調査を実施することで、保健ボランティアの活動実態を包括的に捉え、保健ボランティアによる経費負担が活動に負の影響を与える可能性があることを明らかにし、プロジェクト運営時の留意点を示した。</p> <p>また、活動中はデータ収集員、結核治療施設のスタッフ、地域保健ボランティアといった多くのフィリピン人と交流を持つことができた。特に、データ収集員についてはインタビューの方法や結核対策に関するトレーニングを実施したため、現地人材の能力向上にも貢献できたと考えられる。</p>   |  |                    |
| (4) 今回の事業をふまえて今後の計画  |  |                    |
| <p>調査研究の結果から、調査地で実施されている結核対策に関する研修では地域保健ボランティアのニーズを満たしていないことが示唆されたため、研究協力機関に対して研修の手法と内容の再検討を提案することでプロジェクトの質の向上に貢献できればと考えている。今回は質問紙による量的調査のみを行ったため、機会があれば数名の保健ボランティアに対する質的インタビューを行い、各要因に関して考察を深めたい。</p> <p>また、現在在籍している開発コンサルティング会社において、アフリカにおける地域保健プロジェクトへの派遣が決定している。当該プロジェクトにおいても保健人材の育成に取り組んでいるため、今回の調査研究活動によって得られた知見を活かし、プロジェクトの実施に携わりたいと考えている。</p>  |  |                    |

平成 22 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 支援経費の支出報告書 提出日 2012 年 6 月 5 日

氏名: 関司 令子

実施国: フィリピン

支援金額 30 万円

| 費目             |           | 費用                  | 総費用内訳 (計算根拠を具体的に)   |
|----------------|-----------|---------------------|---|
| (1) 旅費         | 国内<br>旅費  | 6 万円<br>( 6 万円)     | 帰国時電車代 (成田-土浦、土浦-羽田)<br>帰国時航空運賃 (羽田-長崎)<br>学会参加時電車代 (長崎-高知)、宿泊代 |
|                | 海外<br>旅費  | 51 万円<br>(17 万円)    | 航空運賃 (成田-マニラ)、フィリピン出国税、査証代<br>現地宿泊費、調査時交通費                      |
| (2) 人件<br>費    | 協力者<br>謝金 | 0 万円<br>( )         |   |
|                | 補助者<br>謝金 | 3 万円<br>( 0 )       | データ収集員 5 名、データ入力者 1 名、<br>現地ガイド 1 名 (スラム地域)、質問紙翻訳者 1 名          |
| (3) 器具・備品費     |           | 1 万円<br>(1 万円)      | フィリピン国内用携帯電話、プリンター、ウェブカメラ、<br>パソコン備品                            |
| (4) 借用費        |           | 0 万円<br>( )         |   |
| (5) 会議費        |           | 0.5 万円<br>(0.05 万円) | 学会参加費、データ収集員トレーニング費   |
| (6) 資料費        |           | 1 万円<br>(1 万円 )     | 参考図書購入費、地図購入費   |
| (7) 印刷・複写・製本費  |           | 0.7 万円<br>(0.5 万円)  | 質問紙コピー代、論文製本代   |
| (8) 通信・運搬費     |           | 3.5 万円<br>(3.5 万円)  | フィリピン滞在時電話・インターネット代、<br>EMS 代、国際宅急便代                            |
| (9) 消耗品費       |           | 2 万円<br>(1 万円)      | 調査協力者向け粗品 (タオル@27PhPx180 名文)、文房具、<br>CD-R、コピー用紙                 |
| (10) 雑費        |           | 万円<br>( )           |   |
| 総費用<br>(内支援金額) |           | 68.7 万円<br>(30 万円)  |   |

※ ( ) 内に、支援金の使用額を記入ください。